第３学年　道徳科　学習指導案

１　主題名　　他人を許すとはどういうことか。B（９）相互理解、寛容
２　題材名　　「恩讐の彼方」（中学道徳３　きみがいちばんひかるとき）（光村図書）
３　主題設定の理由
（１）ねらいとする価値について
　中学３年生の生徒は、ものの見方や考え方が確立するとともに、自分の考えに固執する傾向もある。人にはそれぞれ自分のものの見方や考え方があり、個性があることから、互いの独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することが大切である。一方で、周囲との摩擦を恐れ、自分の本心を隠して過剰に同調したりもする。「寛容の心」は、他人の不正を大目に見たり、見て見ぬふりをしたりする処世術ではない。自分の考えをしっかり伝えながらも、相手の立場や生き方を尊重し、それを受け入れようとする姿勢をもつことの大切さについて考えさせたい。
（２）生徒について
　これまでの学校生活において、自分の考えや意見を相手に伝えることの大切さを感じるとともに、相手の立場にたって物事を考えることが相互理解につながると学んできた。しかし、小学校から今までの関わりから、他者に対しての見方が固定されている。自分の考えに固執するあまり、すれ違いが生じ、限られた人間関係の中でしか自分の思いを表現できない生徒も少なくない。また周囲の雰囲気に同調することが友情の証だと考える生徒もいる。まずは相手のことを知ろうとする気持ち、対話を通して相互理解をすることができ、寛容の心をもって他者と接しようとする意欲と態度を育てたい。
（３）教材について
　　１９１９年発表の菊池寛の小説が原作の読み物教材である。

【あらすじ】
　主殺しの大罪を犯した市九郎は，出家して了海となり，贖罪のために，１年に10人もの命を奪う渓谷沿いの難所に隧道を掘り抜くことを決意する。市九郎に父を殺された実之助は19になると父の敵を求めて旅に出て，洞窟で一人つちを振るう了海を見つけ出す。実之助は，すぐさま敵を討とうとするが，隧道完成まで了海の命を長らえさせてほしいという石工たちの願いに応じることにする。それから，二人は共につちを振るい，二人が出会ってから１年６か月の後やっと隧道は完成することとなる。了海は隧道が完成した際、約束通り敵を討つように実之助に申し出たが、その時にはもはや実之助の心の中には敵を討つ心はなく，了海が一心不乱に成し遂げた偉業への驚異と感激の心でいっぱいになる。

立場の違う二人の姿から人間の生き方を深く考えることができる教材である。互いの個性や立場を尊重し，広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てていきたい。
４　本時の計画
（１）本時のねらい
　　相手を「許す」という寛容の心について、心情スケールを用いて考えることを通して、他者の立場や考え方を尊重し、理解し合おうとする実践意欲と態度を育てる。
（２）指導の構想
《手立て１》心情スケールを用いての思考
　本教材は１００年も前の小説であり、言葉も難解である。さらに場面設定も身近な話題ではなく、長文のため、生徒が自分事として捉えるのが容易ではない教材である。よって、今回は自分事として捉えさせるために、場面を３つに分けて考える。その場面ごとの登場人物（実之助）の心の揺れ動きを心情スケールを用いて可視化する。登場人物の心の動きの背景等を考えることを通して、他者を理解するためには一つの見方だけで判断せず、複数の見方をすることが大切であるということに気づかせたい。

《手立て２》多面的・多角的に考える対話

課題に対して広い視野から多面的・多角的に考えさせるため、他者の考えを共有するための対話が大切である。他者の考えから多様な感じ方や考え方が引き出され、内省し、熟慮し、思考が深まると考えている。

① 教材との対話

資料は前時に読み、気になることや考えてみたいこと、疑問に思ったことなどロイロノートで共有しておく。それは、教材に時間をかけて向き合い、教材の登場人物に思いを重ねることによって、自分の考えや思いをもち、「自分との対話」「他者との対話」につなげることができると考える。

② 自分との対話

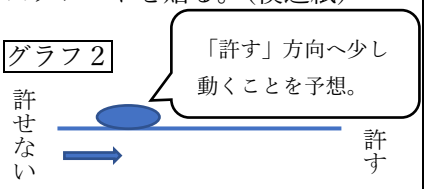
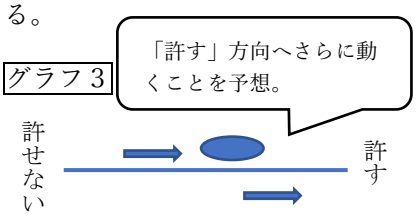
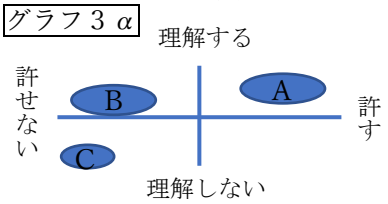
３度の「了海を許せるか」という問いに対して、その場面ごとに自分を置き換えて判断する。また他者の意見を聞いて、多様な考えに触れることにより、それまでの自分の経験をもとに、自分を見つめ直すであろう。その中で道徳の内容項目における指導の要点を基に、人間としての生き方についての納得解に向けて自分と対話し答えを導き出させるように授業を構成する。

③ 他者との対話

他者との対話の中から多様な考え方や価値観があることに気づき、人間としての生き方について考えるきっかけとしたい。合意形成を目的とした話し合いとは異なり、今回の対話は、自分だけではもちえなかった新しい考え方に触れ、それも受容する心情を育てたいと考える。

（３）本時の展開

学習活動	教師の働きかけと生徒の反応	■評価基準　○留意点
導入 １　課題と前時の確認をする。	Ｔ１：みなさんから書いてもらった感想の中で「親を殺した相手と仲良くできるのかが理解できない」という感想が出てきました。理解するといってもなかなか難しいよね。そこで「相手を理解するとはどういうことか」という課題に対して、了海と実之助の二人の関係から考えてきました。 今日はその続きをします。 【学習課題】 相手を理解するとはどういうことか。	○生徒が書いた感想から、課題を設定したことを確認する。
２　資料の確認 【資料との対話】 資料のあらすじを確認する。	Ｔ２「恩讐の彼方」の内容を確認します。 了海：主殺害。江戸から逃亡。悪行を重ねる。罪深さから出家。「了海」と名乗る。絶壁を掘り抜いて隧道を作ろうとしている。 実之助：父の敵を見つける旅から９年。了海を発見。槌と悲壮な念仏の音に驚異と感激する。 【指示】 １場面において実之助はどうして了海を許せなかったのですか。説明しなさい。 S1　親が殺されているので許せるわけがない。 S2　殺してやりたいという心境だと思う	○話のあらすじ（１場面）を整理したものを、テレビに写す。（PowerPoint） ○実之助が了海を敵討ちに行ったことを確認する。 ○隧道で１年間に１０人もの人が命を落とすことを確認する。 １場面・・実之助が９年間探し求めていた了海を見つけ出し、これから会おうという場面。 ○思考ツールで位置を確認する。（前時の模造紙スケールを貼る） グラフ１ 生徒は「許せない」と答えると予想 許せない　許す ○了海のへの怒りは絶頂であることを確認する。

展開 3　自分との対話 ・実之助の行動に対しての自分の考えを明らかにする。 【教材・自分との対話】 ○登場人物に自分を重ねて考え、心情の変化を確認する。 【仲間との対話】 多面的・多角的に考える。	【発問①】 ２場面においてあなたが実之助だったら了海を許せますか。 【指示】 心情スケールにネームプレートを貼り、なぜその位置なのか理由をノートに書きなさい。 S3　了海と一緒にのみをもってひたすらな姿に心を打たれたから。 S4　もしかしたら、了海と少し会話をして、了海が反省していることが伝わったから。 S5　何があっても親を殺した犯人は許せない。 【発問②】　３場面においてあなたが実之助だったら了海を許せますか。 【指示】 心情スケールにネームプレートを貼り、なぜその位置なのか理由をノートに書き、ジャムボード上のネームプレートを動かしなさい。 S6：やったことはすごいけれど親を殺された恨みは一生ものだ。 S7　了海が人のために努力するのを間近で見ていたから気持ちが動いた。 S8 一緒に活動をして、完成させたのだから「許せる」に近づいたと思う。 【発問③】 「二人は全てを忘れ、ただただ感激の涙を流し合った」とありますが、この涙はどんな涙ですか。 了海・・隧道を完成させた喜びの涙。 実之助・復讐心や恨みを忘れた喜びや大業を成し遂げた了海への感動の涙。 【補助発問③】 涙を流したということは気持ちがゆれ動いたということですね。気持ちが動いたということは、了海を「理解した」のでしょうか。 【発問④】 グラフ３に「理解する」「理解しない」の縦線を足します。自分の位置を矢印で表してください。 【指示】 自分がその位置の理由を班員に説明してください。 S9　お互い歩み寄っているし、もう全てを忘れているからこの位置。・・A S10 了海のことを理解はすると思うけれど、	２場面・・実之助が了海とともにのみをふるい、了海のひたすらな姿を目の当たりにしている場面。 ○PowerPoint で２場面までのあらすじを簡単に確認する。 ○黒板に自分の考える位置にネームプレートを貼る。（模造紙） グラフ２  ○了海と共に活動したことで了海への怒りの気持ちが１場面より薄れてきていることを確認。 ○PowerPoint で３場面までのあらすじを簡単に確認をする。 ○ノートに自分の位置とその理由を明記させてから、ジャムボードで「許す」「許せない」の心情スケールに自分の名前を貼る。 ○他の人のネームプレートは動かしたり形を変えないことを約束する。 グラフ３  ○２場面よりも「許す」の方に動いていることを確認する。 ○実之助は完全には「許す」気持ちになっていないことに着目させる。 ○「涙」の意味を考えることで、実之助の了海に対する心情の変化があったことを確認させる。 ○ここでの「理解する」とは、人としての生き方や考え方について理解するという意味だと全体で共通理解する。 ○ノートの心情スケールに縦線を付けたし、自分の位置と理由を簡潔に書く。 ○グラフ３のジャムボード上の心情スケールの写真（画像）に縦線を追加しロイロで全員に送る。 グラフ３α  ○班で一つの iPad（班長のもの）

	やっぱり父親を殺されたことに関しては許せない。・・B S11　親の恨みしか考えられない。・・C 【補助発問１】 父親を殺した犯人は、許せますか。 親を殺された行為は許せますか？ S12　相手の偉業は認めるけれど、許せない気持ちは変わらないと思う。 【補助発問２】 二人で涙を流し合ったとありましたよね。 S13　「許せない」けれど、涙を流したってことは、同じ作業をすることが「理解」につながったのかもしれない。 S14　親を殺した人を「理解」できないかもしれない。 【発問⑤】相手を理解するとはどういうことですか。 S15　「理解」は対話をすることから始まる。相手の話をよく聞き、相手を知ることによって「理解」につながる。 S16　「理解する」は同じ時間を共有することによって生まれる。	を用いて話をするように指示する。 ○自分とは違う考えの人の意見を聞いて多面的に捉える。 ○他者の意見を聞いて位置を動かしたくなった場合は違う色の矢印で表すように指示する。 ○班で「理解」とはどういうことか対話する。 ○もう一度ここでの「理解」の意味を確認する。 ○班で「理解する」について考え、複数の班は発表する。 ○「知る」ことが理解への一歩だということを抑える。 ○一面だけで判断しがちな人間関係について言及する。
	【まとめ】 「理解する」とは、相手を一面だけではなく、よく知ろうとすることから始まるものである。	
終末 振り返り 自分の他者との関わりについて考える。	【指示】 今日の授業からあなたは、今まで似たような経験をしたことはありませんか？考えたこととともにノートに書いてください。	○振り返りの時間を十分に確保する。 ■振り返りをもとに評価する。 ○今までの自分と今後の自分について書くように指示する。

（４）本時の評価

［評価方法］話し合いやノートへの記述を基に評価する。

［評価基準］自分とは異なる考えを理解、尊重した上で、振り返りに具体的に記述している。

例）　自分は、人とあまり積極的に関わる方ではない。いったんその人を嫌だと思うと、話しかけようとは思わない。しかし嫌だと思い続けても何も始まらない。人を多方面からその人を見ることが大切だと思う。

例）　何年も村人のために尽力している了海と同じ時間を費やしていたという意見を聞いて同じ時間を費やすとその人のいろいろな面が見えてくると分かった。私は、友だちをよく見ていなかったように思う。だから、相手を知ろうとする気持ちをもって接していきたい。